

第2回目 「サバ神社」個別の由緒

（2023年8月9日放送）

今回は「サバ神社」13社個別の概要と由緒を説明します。説明は『相風記』の記載事項を中心に、「サバ神社」の由緒を境川本流に沿って、北から順を追って、次の項目について説明します。

- ① 神奈川県宗教法人名簿』による現社名
- ② 江戸時代の旧社名
- ③ 江戸時代の所在地名
- ④ 創立年
- ⑤ 創立者と管理主体
- ⑥ 現在地
- ⑦ 主祭神
- ⑧ 隣接河川名
- ⑨ 補足事項

です。では、北から順に紹介します。

1社目は、現横浜市瀬谷区にある「馬サバ」の「左馬社」です。13社の最も北に位置します。相風記では「馬サバ」の「左馬明神社」と記載され、所在地は鎌倉郡山ノ内庄瀬谷村とあります。創立年は不明ですが、源家縁の人の勧請で村持ちの鎮守です。現在地は横浜市瀬谷区橋戸 3-20-1 で、主祭神は源義朝です。境川左岸に並行して南向きに位置し、古くは「古宮(こみや/ふるみや)」と呼ばれる現在地から300m南下した境川沿いの土地にありました。

2社目は、現大和市上和田にある「馬サバ」の「左馬神社」です。宝暦14(1764)年の棟札では「魚サバ」の「鯖大明神」です。『相風記』では、「馬サバ」の「佐馬明神社」と記載されていますが、人偏の佐をつけた「馬サバ」唯一の例となっています。所在地は高座郡渋谷庄上和田村とあります。名主渡辺兵左衛門、小川清右衛門が宝暦14(1764)年3月に創建といわれます。村持ちの鎮守です。現在地は大和市上和田1168で、主祭神は源義朝です。境川右岸に並行して南向きに位置しています。

3社目は、現大和市下和田にある「馬サバ」の「左馬神社」です。『相風記』では、「魚サバ」の「鯖明神社」と記載され、所在地は高座郡渋谷庄下和田村とあります。地頭辻忠兵衛が寛文10(1670)年12月建立といわれます。今は廃寺となった真福寺持の鎮守です。現在地は大和市下和田1110で、主祭神は源義朝です。境川右岸に並行して南向きに位置しています。

4社目は、現横浜市泉区上飯田にある「飯田神社」です。『相風記』では「飯田明神社」または「魚サバ」の「鯖明神」と記載され、所在地は鎌倉郡山ノ内庄上飯田村とあります。創立年は不明ですが、飯田三郎能信が地頭に復し、奉幣の儀が延応元(1239)年になされたこと『神奈川県神社誌』に記載されています。『神奈川県神社誌』は以後、『県神社誌』と略します。村持ちの鎮守です。現在地は横浜市泉区上飯田町2517、主祭神は源義朝です。境川左岸に並行して南向きに位置しています。現存する「サバ神社」では地名由来の2社のうちの1社です。

5 社目は、現横浜市泉区下飯田にある「魚サバ」の「鯖社」です。扁額には「馬サバ」の「左馬神社」となっており、ここでは「馬サバ」とカウントします。『相風記』では「鯖明神社」と記載され、所在地は鎌倉郡山ノ内庄下飯田村とあります。創立年は不明ですが、領主箕為春が天正 18(1590)年に社殿を再興したとの記載が『県神社誌』にあります。同氏は現存する東泉寺の開基であり、同社は東泉寺持の鎮守となりました。現在地は横浜市泉区下飯田町 1389、主祭神は源義朝です。境川左岸に並行して南向きに位置しています。

ここまで、藤沢市にも程近い横浜や大和にある 5 社をご紹介しました。次は、藤沢市内の神社です。

6 社目は、現藤沢市高倉にある「七ツ木神社」です。『相風記』では、「魚サバ」の「鯖明神社」と記載され、所在地は高座郡渋谷庄七ツ木村とあります。創立年は不明ですが、渋谷義重が文禄年中(1592-1596)に崇敬したと『県神社誌』にあり、村持ちです。現在地は藤沢市高倉 1128 で、主祭神は源義朝です。境川右岸に並行して南向きに位置しています。現存する「サバ神社」では地名由来の 1 社です。明治になって当時の村名に改名されました。

7 社目は、現藤沢市湘南台にある「魚サバ」の「鯖神社」です。『相風記』では、「魚サバ」の「鯖明神社」と記載され、所在地は高座郡渋谷庄今田村とあります。地元住人の井上瀬兵衛が元禄 15(1702)年に造立と『県神社誌』に伝わります。村持ちの鎮守です。現在地は藤沢市湘南台 7-201 で、主祭神は源義朝です。境川右岸に直面して東向きに位置する唯一の事例となります。

8 社目は、現藤沢市西俣野にある「馬サバ」の「左馬大明神」です。神社というより小宮という方が近いかも知れません。『相風記』では、「馬サバ」の「左馬明神社」と記載され、所在地は高座郡大庭庄西俣野村とあります。元禄 15(1702)年の創建であることや、小栗塚 508 から現在地に移築される前は廃寺となった神禮寺持であったことが、『西俣野地誌』にあります。神禮寺は遠藤村大駿寺傘下の当山派修験でした。明治時代には、人偏の「佐」に「間」と書く「佐間大明神」と称されるようになりましたが、これは音通による表記変更と見られます。音通とはある語の音節が五十音図の同行、または同列の音の転換です。当時は音通が一般的になされていたことが窺えます。現在地は藤沢市西俣野 837 で、主祭神は源義朝です。境川右岸に並行して南向きに位置しています。

ここまでで、今回の講義は終了とします。廃絶された東俣野の 1 社と藤沢市内でも引地川流域の 1 社及び和泉川流域の 3 社は次の回にお送りします。